

# どの社会的スキルが良好な対人関係の形成・維持に関連するか<sup>1)</sup>

Which social skills effect on constructing and managing satisfactory interpersonal relationships ?

水野邦夫  
MIDZUNO, Kunio

## 要 約

本研究は、Midzuno (2004) のモデルに従い、良好な対人関係を形成・維持する際に、どのような社会的スキルが関連するかを検討することを目的とした。大学生および専門学校生188名（男子99名，女子89名）に質問紙調査を実施し、思い浮かべた1名の人物について、そのパーソナリティ特性（外向性，協調性），さまざまな社会的スキル（関係開始，自己主張，関係維持）およびその人物との関係性（関係の良好度）を回答させた。モデルに従ってパス解析を行ったところ，関係維持スキルは良好な関係性と正の関連を持つものに対して，自己主張や関係開始スキルは関連しないかむしろ負の関連を持つことが示された。パスを整理し，再度分析を行ったところ，社会的スキルは外向性を背景とした関係開始・自己主張スキルと，協調性を背景とした関係維持スキルに分かれ，しかも，関係開始・自己主張スキル（および外向性）は良好な対人関係に直接関連しないことが示された。これらの結果をもとに，関係の開始から維持にかけて，表現性スキルと感受性・制御スキルとの間に機能的な役割の交代が生じている可能性が示唆された。

**Key Words** : 良好な関係性，関係維持スキル，関係開始スキル，スキルの役割交代

1) 本研究のデータは，日本社会心理学会第47回大会（平成18年9月18日，於 東北大学）においてパネル発表された。

良好な対人関係を形成・維持していくうえで重要な要因にはさまざまなものが考えられるが、パーソナリティ要因としてまず思いつくのが外向性と協調性であろう。これらは対人的な場面でコミュニケーションを促進したり、調和的な人間関係を築いたりすることに大いに役立つと考えられる。また、対人関係を円滑に処理する能力である社会的スキル (social skill) も重要な要因であるといえよう。

水野 (2003) は、これらの要因が良好な対人関係を形成・維持するうえでどのように関与するかについて検討し、協調性は好意的感情や良好な関係性に直接的にも社会的スキルの要因を介しても関与するのに対し、外向性は直接的には関与しないことを見出している。これを受けて、Midzuno (2004) は外向性、協調性、社会的スキルが良好な関係性に関与するモデル (Figure 1 参照) について検討を行ったが、やはり外向性は良好な関係性に直接的に関与しないことを明らかにしている。

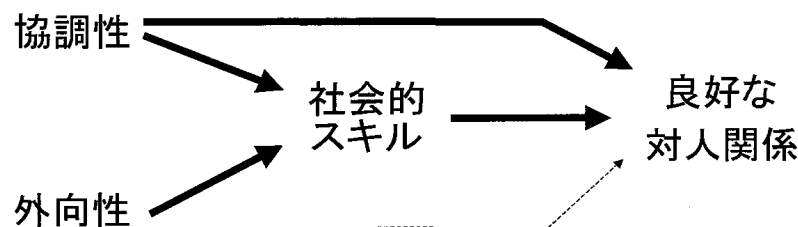


Figure 1 Midzuno(2004)に基づく良好な関係性に関するモデル

ところで、Midzuno (2004) のモデルでは、社会的スキルを単一的なものとして捉えているが、たとえばRiggio (1986) やBuhrmester, Furman, Wittenberg, & Reis (1988) などが指摘しているように、社会的スキルはさまざまな側面や次元を持つと考えるのが自然であろう。また、それらの各次元が、対人関係の形成や維持において異なった役割や影響力を持つことは十分に予測される。現に水野 (1998, 2001) は、感情・行動をコントロールしたり、他者に配慮したりするスキルは対人関係における好悪感情の変化に関与するのに対し、新しい場面にうちとけるスキルはほとんど関与しないこと

を見出しており、対人関係においてどのスキルが良好な関係性にどのように関与するかを区別して認識しておくことは、対人関係と社会的スキルとの関連性を考えるうえで、重要なことであるといえよう。

そこで本研究では、Midzuno (2004) のモデルをもとに、良好な関係性にどのような社会的スキルがどのように関連するかを検討することを目的とした。なお、社会的スキルにはさまざまな次元・側面があることを先に述べたが、水野 (1998, 2001) などから、関係開始時に必要となるスキルと関係形成期以降に必要なスキルが存在すると予測される。これについて、和田 (1991) は、Buhrmester et al. (1988) をもとに、関係開始、関係維持、自己主張のスキルを測定する尺度を作成しているため、今回はそれらのスキルについて検討を試みた。

## 方 法

**被調査者** 滋賀県内の大学ならびに専門学校で心理学または人間関係論の授業を受講している学生に対し、下記質問紙への回答を依頼したところ、188名（男子99名、女子89名）がそれに応じた。

**質問紙** 身近な人物を1名想起させたうえで、下記の質問項目について、その人物がどれくらいあてはまるかを5段階で尋ねる質問紙を作成した。なお、下記項目のうち、1)と2)は本来自己評定のための項目であるが、他者評定用に用いた際には被調査者が意味を取り違えかねない表現のある項目については、適宜補足的な文言を加えたりした<sup>2)</sup>。

1) 5因子性格検査 辻 (1998) によって作成された。本研究では、このうちから内向性－外向性および分離性－愛着性に関する項目（各30項目、計60項目）を選び出した。

2) ソーシャルスキル尺度 和田 (1991) がBuhrmester et al. (1988) をもとに作成した尺度で、29項目からなる。

3) 対人関係の良好度に関する項目 水野 (1997) で用いられた「(思い浮か

2) たとえば、5因子性格検査の「せかせかした生活は嫌いである」については、「せかせかした生活は嫌いである (と思っているだろう)」のように説明を追加した。

べた) 友人に対してそのような感情や態度をどれくらいもっているか」に関する6項目から、水野(1997)に従い、1項目を除外した計5項目を用いた。手続き 調査は授業時間の一部を利用して行った。受講者に質問紙を配付し、研究目的について説明し、調査への協力を依頼した。なお、調査に応じる場合は、「調査協力点」として授業の評価点の一部(3点程度)に加算することを約束した。また、応じる場合には学籍番号、氏名、性別を記入し、問題に回答するように求め、応じられない場合は、問には回答せず、無記入のまま提出するように指示した。

## 結 果

内向性-外向性および分離性-愛着性に関する項目については、それぞれの項目の素点の合計点を算出し、それぞれ外向性、協調性の指標とした(Cronbachの $\alpha$ 係数値はそれぞれ、.857および.883であった)。対人関係の良好度についても素点の合計点を算出した(同、.811)。ソーシャルスキル尺度については、因子分析を行った(主成分解、Promax回転、因子数は和田(1991)に基づいて3因子に指定、累積寄与率40.84%)ところ、和田(1991)と類似した因子(関係開始、関係維持、自己主張)が得られたので、各々の因子得点を各スキルの指標とした。

モデルの検討 Figure 1に基づき、外向性と協調性を外生変数、各スキルを内生変数としてパス解析を行った。その結果をFigure 2に示す。Figure 2から、Midzuno(2004)同様に、良好な関係性に対して、外向性はスキルを介した間接的な関連しかしないこと、協調性は直接的にもスキルを介した間接的にも関連することが示された。また、外向性は関係開始や自己主張スキルへの関連性が高いのに対し、協調性は関係維持スキルへの関連性が低いこと、自己主張や関係開始スキルは良好な関係性に関連しないかむしろ負に関連することなども明らかになった。なお、男女別に同様の分析を行ったが、同様の結果が得られた。

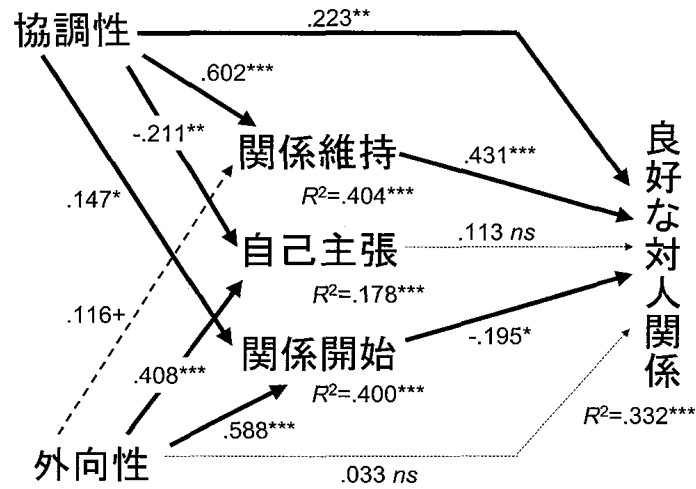


Figure 2 モデルの検討結果について  
 註：+ $p < .10$ , \* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$

次に、Figure 2 のパス係数が絶対値で.20に満たないパスを除外し、再度同様の分析を行った。その結果をFigure 3に示す。Figure 3より、社会的スキルは外向性を背景とした関係開始・自己主張スキルと、協調性を背景とした関係維持スキルに分かれ、しかも、関係開始・自己主張スキル（および外向性）は良好な対人関係に関連しないことがわかる。

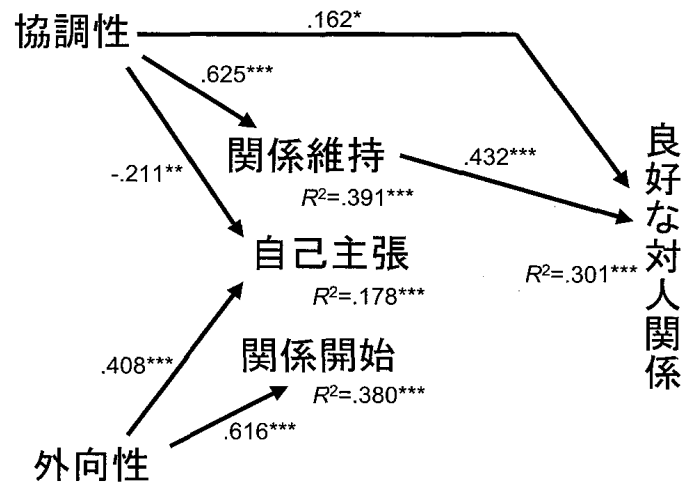


Figure 3 モデルの検討結果について（再分析）  
 註：\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$

## 考 察

本研究では、良好な対人関係の形成・維持にどのような社会的スキルがどのように関連するかを検討したが、関係維持スキルは大きく関連するが、関係開始や自己主張のスキルはほとんど関連しない（あるいは負の関連性を持つ）ことが明らかとなった。関係維持スキルが関連することは当然のことと言えるが、関係開始スキルや自己主張スキルが関連しなかったことから、対人関係形成・維持過程において、重要となるスキルとそうでないスキルが存在すると考えられる。とくに関係開始スキルが良好な関係性の形成・維持に関連しなかったことは、水野（1998, 2001）とも合致しているといえよう。

ここで、関係開始スキルと自己主張スキルの特徴を吟味し、なおかつ外向性との関連が高いことに注目すると、これらのスキルはRiggio（1986）のいう基本（表現性、感受性、制御）スキルのうち、表現性のスキルであると考えられる。対人関係を開始する場合、表現性のスキルが高い方がよりスムーズに関係を開始させることができるであろう。しかし、そのことが後の対人関係の形成・維持にも寄与するというわけではなく、形成段階以降は別のスキルが必要となるのではないかと考えられる。そして、それが関係維持スキルということになるのであろう。関係維持スキルがRiggio（1986）のいうどの基本スキルに当たるかについては、さらに検討する必要があるが、項目内容からみて、必ずしも表現性のスキルばかりでなく、聴く・受容する・援助するなど、感受性や制御などのスキルに基づくものが多いと考えられる。すなわち、対人関係を進展させていく場合には、表現能力はそれほど関与せず、相手の気持ちを察したり、自分の気持ちをコントロールしたりすることが重要であるといえよう。

以上のことを踏まえて、良好な対人関係の形成・維持に関わる社会的スキルの役割について考えると、次のことが想定されよう。まず、初対面の者どうしが知り合い、関係が開始されようとするときには、表現性（外向性系）のスキルが有効であり、このスキルが高い者は関係がよりスムーズに開始することができる。しかし、比較的早い段階でこのスキルは役割を終え、その

かわりに、感受性や制御のスキル（協調性系）が関係の形成・維持に重要な役割を果たす。ゆえに、これらのスキルが低い者は、たとえ関係を開始することができても、その関係は長続きしないと想像できよう。水野（2001）をもとに、役割交代の時期を予測すると、関係開始から3ヶ月後にはすでに役割交代が生じているのではないかと考えられる。

今後は、関係の開始、形成、維持に応じてどのような社会的スキルが重要な役割を果たすかを、より具体的に検討していく必要があるだろう。

### 引用文献

- Buhrmester, D., Furman, W., Wittenberg, M. T., & Reis, H. T. 1988 Five domains of interpersonal competence in peer relationships. *Journal of Personality and Social Psychology*, 55, 991-1008.
- 水野邦夫 1997 対人関係における外向性の直接的効果について 聖泉論叢, 5, 63-75.
- 水野邦夫 1998 関係初期の好感度に及ぼす行動特性・社会的スキルの効果 日本社会心理学会第39回大会発表論文集, 220-221.
- 水野邦夫 2001 対人的好悪感情の変化に伴うパーソナリティおよび社会的スキル認知の変化について 行動科学, 40, 9-18.
- 水野邦夫 2003 社会的スキルに影響する特性要因についての検討—外向性は社会的スキルの主要因か?— 行動科学, 42, 99-102.
- Midzuno, K. 2004 *Is extroversion a "desirable" trait?* Presented at the 28th International Congress of Psychology, Beijing, China. Abstracts, 3118.113.
- Riggio, R. E. 1986 Assessment of basic social skills. *Journal of Personality and Social Psychology*, 51, 649-660.
- 辻 平治郎（編）1998 5因子性格検査の理論と実際 北大路書房
- 和田 実 1991 対人的有能性に関する研究—ノンバーバルスキル尺度およびソーシャルスキル尺度の作成— 実験社会心理学研究, 31, 49-59.